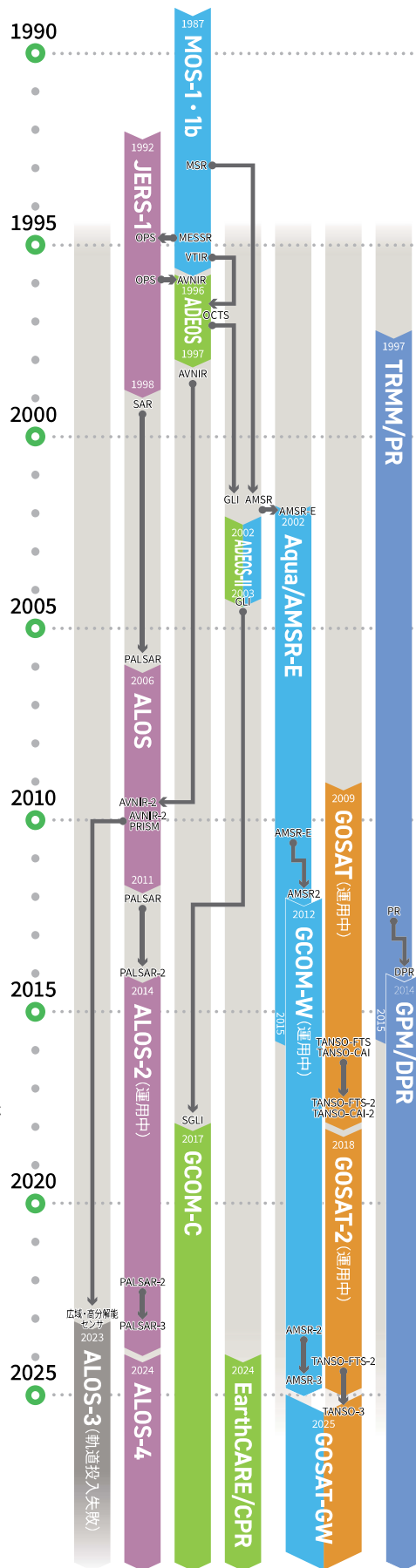


JAXAは、気候変動、自然災害、森林破壊、水循環の極端化といった国内および地球規模の課題に対し、衛星を用いた高精度な地球観測によって、科学的な根拠に基づく情報を提供することを目指しています。これにより、持続可能な社会の実現や国際協力の推進に貢献しています。

より高性能で高信頼な観測を可能とするため、合成開口レーダやマイクロ波放射計、分光計などの先進的な観測技術の開発を進めています。これにより、次世代の地球観測衛星ミッションが地球環境や災害監視において、より貢献できるよう取り組んでいます。

- 1978.10 ・宇宙開発事業団 地球観測センター (EOC) 開設
- 1990.10 ・東西ドイツ統一
- 1991.06 ・長崎県雲仙岳大火山噴火発生
- 1991.12 ・ソビエト連邦崩壊
- 1992.03 ・東海道新幹線「のぞみ」号運転開始
- 1993.05 ・Jリーグ開幕
- 1995.01 ・阪神・淡路大震災
- 1995.03 ・地下鉄サリン事件
- 1995.04 ・宇宙開発事業団 地球観測システム本部
地球観測データ解析研究センター (EORC)
(六本木ファーストビル) 設立
- 1995.11 ・「Windows95」日本語版が発売
- 1998.02 ・長野冬季オリンピック
- 1998.06 ・FIFAワールドカップに日本初出場
- 2001.03 ・大阪ユニバーサルスタジオジャパン (USJ) 開園
- 2001.04 ・EORCが、衛星総合システム本部
「地球観測利用研究センター」に名称変更
- 2001.07 ・EORCが、晴海トリトンスクエアに 事業所移転
- 2003.10 ・宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 発足
- EORCが、宇宙利用推進本部
「地球観測利用推進センター」に名称変更
- 2006.05 ・EORCが、宇宙利用推進本部
「地球観測利用研究センター」に名称変更
- 利用推進部署が独立し
「衛星利用推進センター」(SAPC) として設立
- 2006.10 ・EORCが、JAXA筑波宇宙センターに事務所移転
- 2007.04 ・EOCにて全面運営委託を開始。EOCにおける地上
システムの開発機能はEORCの地上システム開発
グループに吸収
- 2008.04 ・EORCが、宇宙利用ミッション本部
「地球観測研究センター」に名称変更
- 2010.04 ・衛星システム技術グループの地上担当及びEORC
の地上グループが統合され「ミッション運用シス
テム推進室 (MOSS)」として設置
- 2013.04 ・EORCが、第一衛星利用ミッション本部
「地球観測研究センター」に本部名変更
- 2015.04 ・衛星部門と輸送部門が合併し、EORCは
第一宇宙技術部門「地球観測研究センター」に
・SAPCとミッション運用システム開発室 (MOSS)
が統合し、衛星利用運用センター (SAOC) に
※EORCの日本語名称は複数回変更していますが、英語名称
はEORCで同じです
- 2019.04 ・衛星部門と輸送部門が分離
- 2020.02 ・新型コロナウイルス、世界各地に蔓延
- 2021.07 ・東京オリンピック
- 2021.12 ・前澤友作さん、ISSへ宇宙旅行 (日本民間人初)
- 2022.02 ・ロシア軍、ウクライナ侵攻
- 2024.01 ・能登半島地震 (M7.6)
- 2024.01 ・SLIM月面着陸成功 (日本初)
- 2025.04 ・大阪・関西万博開催
- 2025.09 ・東京2025世界陸上開催



水循環変動観測

- 大気・陸域・海洋・雪氷圏の水に係る物理量の長期観測
- 気候変動に伴う水循環変動の把握と社会生活への影響予測・対策への利用
- 台風・豪雨等の気象予報精度向上での活用
- 漁場探索等の水産業での利用
- 海洋・海水情報の提供による船舶の安全航行支援

災害対応・陸域観測

- 迅速な災害対応支援 (緊急観測)
- 地震・土砂災害・洪水等の状況把握
- 地殻変動の長期監視
- 森林や土地被覆変化の把握
- 高精度な地形・地図データの作成

気候変動観測

- 大気・海洋・陸域の統合観測
- 地球放射収支の把握
- 長期的な気候監視データの提供
- 雲エアロゾルの詳細観測

降水観測

- 降水の三次元構造の観測
- 熱帯～全球の降水量の精密計測
- リアルタイムな豪雨・台風監視
- 気候変動・水循環研究の基盤整備

温室効果ガス観測

- 二酸化炭素・メタンの高精度観測
- 温室効果ガスの国連への国別の排出量報告への活用
- 排出量の“見える化”
- 観測精度・波長範囲の強化 (GOSAT-2以降)